

当組合の平成25年度の決算が、7月4日に開催された組合会で可決・承認されましたので、その概要をお知らせします。

## 平成25年度決算のポイント

### ■一般勘定

#### ①収入

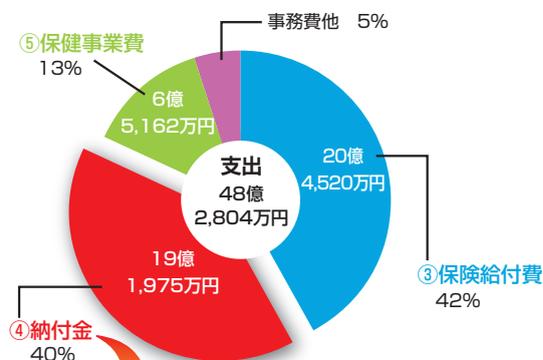
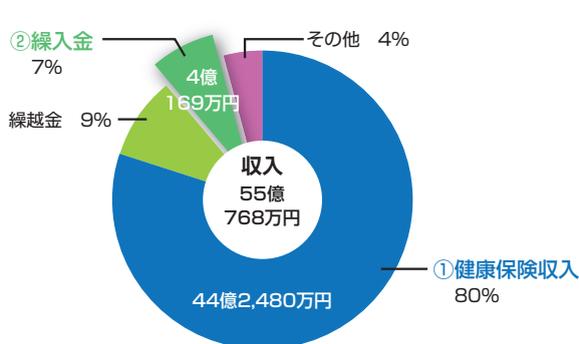
科目	(単位：千円)		(単位：円)	
	決算額	被保険者1人当たり額	決算額	被保険者1人当たり額
①健康保険収入	4,424,797	509,007		
調整保険料収入	81,444	9,369		
繰越金	500,000	57,518		
②繰入金	401,685	46,208		
国庫補助金収入	3,852	443		
特定健康診査等事業収入	16,724	1,924		
財政調整事業交付金	42,100	4,843		
雑収入	37,079	4,265		
収入合計	5,507,681	633,577		
経常収入合計	4,484,137	515,833		
経常収支	-261,812	-30,118		

#### ②支出

科目	(単位：千円)		(単位：円)	
	決算額	被保険者1人当たり額	決算額	被保険者1人当たり額
事務費	126,032	14,498		
③保険給付費	2,045,196	235,269		
④納付金	1,919,754	220,839		
⑤保健事業費	651,624	74,960		
還付金	1,019	117		
営繕費	771	89		
財政調整事業拠出金	81,300	9,352		
連合会費	1,515	174		
雑支出	827	95		
支出合計	4,828,038	555,394		
経常支出合計	4,745,949	545,951		

#### 基礎数値

平均標準報酬月額	430,242円
被保険者数	8,693人
健康保険料率	1000分の72

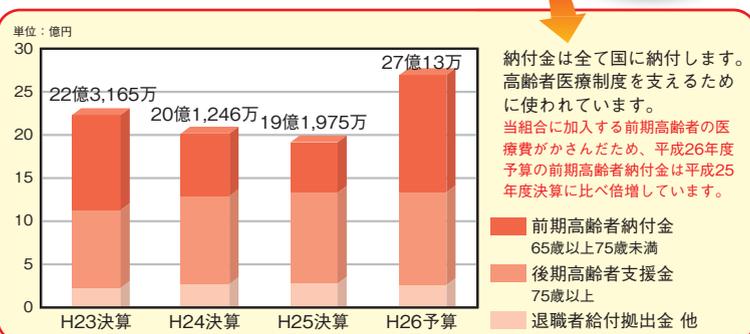


#### ①健康保険収入

組合員と会社から納めていただく保険料で支出をまかなうのが本来です。

#### ②繰入金

積立金4億169万円の繰り入れによって収支のバランスをとっています。



納付金は全て国に納付します。高齢者医療制度を支えるために使われています。当組合に加入する前期高齢者の医療費がかさんだため、平成26年度予算の前期高齢者納付金は平成25年度決算に比べ倍増しています。

#### ③保険給付費

病気やけがをした時の医療費・手当金として使われます。

#### ④納付金

他制度への拠出金となります。多くの組合が赤字となっている原因です。

#### ⑤保健事業費

健診・保健指導、各種補助制度、保養所利用補助金等健康づくりに使われます。

### ■介護勘定

#### ①収入

科目	(単位：千円)		(単位：円)	
	決算額	介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額	決算額	介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額
介護保険収入	428,482	100,488		
収入合計	428,482	100,488		

#### ②支出

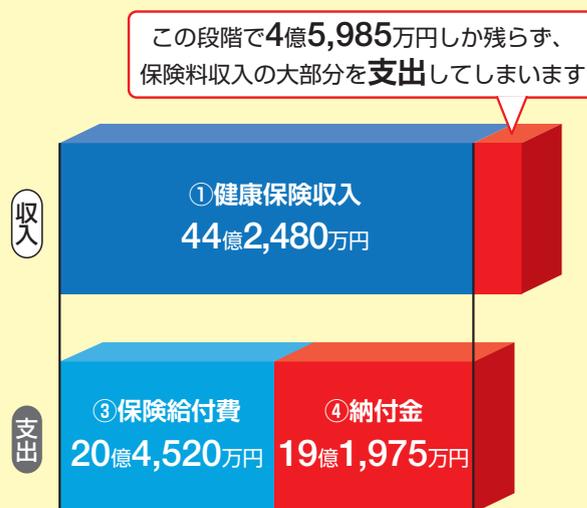
科目	(単位：千円)		(単位：円)	
	決算額	介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額	決算額	介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額
介護納付金	379,004	88,885		
介護保険料還付金	74	17		
積立金	26,039	6,107		
支出合計	405,117	95,009		

## 決算のあらまし

全国の健保組合は、高齢者医療制度を支えるため、④納付金の負担により、大変厳しい財政状況にあります。当組合も例外ではなく、平成25年度の決算も経常収支で赤字となっています。

みなさんと会社から納めていただく健康保険料が、健康保険組合の主たる収入です。平成25年度の当組合の①健康保険収入は44億2,480万円。この範囲内で、当組合の事業を行うのが理想的な姿です。

健保組合の主たる支出は、みなさんとみなさんのご家族が病気やけがをしたときの医療費や手当金などの③保険給付費で、20億4,520万円です。そして、それと並び大きな支出が、高齢者医療制度を維持するための費用となる④納付金（前期高齢者納付金・後期高齢者支援金・退職者給付拠出金・老人保健拠出金）で、19億1,975万円です。④納付金は法に定められた算式に基づいて算定され、全額を国に納付しなければなりません。



当組合の③保険給付費と④納付金を合計しますと39億6,495万円となり、①健康保険収入44億2,480万円の89.6%を支出してしまうことがわかります。

③保険給付費は組合員のみなさんが健康保持増進に努められること、医療費の賢い使い方を徹底していただくことで縮小することが可能です。

しかし④納付金については、高齢化が進む中で制度（法律）がかわらない限りは、今後もより強く健保組合の財政を圧迫することが予測されます。健康保険組合の財政が困窮しているのは、まさにこうした状況があってのことです。

### 決算のポイント

- 保険料率を引き上げたため、健康保険収入が前年度より2億2,800万円増加しました。
- 経常収支で引き続き赤字となりましたが、別途積立金等より4億169万円(前年度比4億5,459万円減)を繰り入れて対応しました。
- 引き続き健康管理事業に重点を置いて保健事業を実施しました。

- これまで保険料だけでは足りない収入を補うために、積立金を取り崩してきました。しかし積立金には限りがあります。一方で、保険給付費や高齢者医療制度を支えるため拠出する納付金は今後、増加していく見込みです。このような支出増にどうやって対応するか考えなくてはなりません。
- 当組合の保険料率は、平成26年度も引き上げましたが、まだ低率（1000分の74）です（協会けんぽ1000分の100）。収入と支出のバランス、今後の社会情勢などを考慮すると、さらに保険料率を引き上げることを検討する必要があります。
- 組合員のみなさんにはよい生活習慣を取り入れ、健康を保ち、医療費の節減に努めていただくことを心がけられますように、ご理解とご協力をお願いします。当組合では今後も健康づくりをサポートする各種保健事業には力を入れていきます。